令和7年度　大田区立清水窪小学校　自己評価　報告書

令和8年2月21日

( ) 本校の概要

・児童数：350学級数：13、教員数：18(9月1日現在)　　開校93周年(11月22日)
・平成23年度より「おおたサイエンススクール」指定校(大田区教育委員会理科教育推進拠点校)、平成25年度より「文部科学省教育課程特例校」として独自教科「サイエンス・コミュニケーション科」を新設、東京科学大学と連携した科学教育を推進
・令和5年度より「コミュニティ・スクール」として学校運営協議会及び地域学校協働本部(清水窪応援隊)を設置　　・令和6年度 国立教育政策研究所教育課程実践検証協力校
・令和5・6年度大田区教育委員会教育研究推進校に指定　研究主題「未来の科学を担う『科学大好きな子ども』を育てる」
・令和5・6年度子どもの生きる力を育むプログラム「大田区における特色ある教育の推進」事業実施校として、和太鼓学習「清水窪かしわ太鼓」を実施

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	○	コメント
個別目標1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケートで「おおたサイエンススクールとして、児童の科学への関心や能力を高めている。」の肯定的な回答の割合(4段階上位2位までの割合)	4:95%以上 3:90%以上 2:80%以上 1:80%未満	4	保護者アンケート「おおたサイエンススjクールとして、児童の科学への関心や4能力を高めている」の肯定的回答が97．3と昨年度と比べると3．1ポイント上がった。昨年度の大田区研究奨励校の発表後も、SC科と理科のかかわりやサイエンスの根本となる理科で育成する資質・能力等の基礎研修、研究も重ねた。またOJT研修会と併せて指導力向上に向け、全教員が研究授業を行い、幅広い教科、領域において多くの講師から基礎的、専門的なご指導をご教示いただき教科横断的な学びからも授業内容も充実させる中で理科、サイエンスコミュニケーション科も深められてきているので今後も教育のICT化等も図りながら研究、研修を深めていく。 サイエンスコミュニケーション科の大きな柱としての東京科学大学との連携については大田区との協定を確かのものにし、双方で組織的でより計画的に実施できるようになってきている。学習内容も昨年度から取組んでいる6年「卒業研究」で児童たちの自主的主体的な学習を取り入れたことから、他学年でも学習内容を見直したり、学習の進め方を変えたりする様子が見られた。日常的な自主的な学習の「サイエンス日記」の取組み、指導を丁寧に行い、「サイエンス日記」朝会に向けて充実した学習を積ませていきたい。	A B C D	10 1 0 0	・ SC科の6年「卒業研究」は、テーマの選び方、実験が失敗した時の対応力など、得るものが大変多いと思います。 ・ 他学年のことは存じていないのですが、5年はサイエンス日記は年間通しても「日常的」とは言えない回数だったように思います。文言としては、少し更新が必要に思いました。 ＊「サイエンス日記をしっかり取り組んでほしい」という要望ではありません。実体に合わせて記載されていると良いかと思い、コメントしました。 回数を増やして等の指摘ではないと、ご了承ください。 ・ 清水窪小学校のサイエンスの取組は、多岐にわたりこども達の興味・関心を引き出すうえで大変役立っていると感じます。さまざまな体験、学びを通じて科学を学び、まだ解明されていない課題を追及していく力が育まれているのではと思っています。人間のよりよい生活の実現や社会の発展へとつながって行くことを期待しています。 ・ 本校は、SC科や東科大学での校外学習等さまざまな取組がなされています。 ・ 卒業研究は創造性の育成に大いに役立っていると評価できる。個々の教員の努力に敬意を表します。 ・ 卒業研究と1年生も対象とした発表は、自主的な学習の観点から大変良い取組だと感じています。 ・ 理科を学習する機会のない今、科学大学との連携は貴重なこと、清水窪小学校の取組を応援いたします。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標2 世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者による公開授業アンケートにおいて「和太鼓発表会では、こどもたちが生き生きと演奏していた。」の肯定的な評価の割合((4段階上位2位までの割合)	4:95%以上 3:90%以上 2:80%以上 1:80%未満	4	本校の特色ある教育活動の1つとしての23年の伝統ある清水窪かしわ太鼓は6月末の和太鼓発表会に向けて3年から6年児童は音楽の時間を中心に練習を重ね、今年も多くの地域、保護者の方々に鑑賞していただき、講評を博した。近隣住民から騒音の苦情を受けているため、練習環境や練習時間に気を付けて行ったので、今後も保護者地域の方々の理解を得ながら学習の機会を確保し、児童の感性、表現力を伸長させる。また、地域商店街自治会の盆踊りで和太鼓演奏を披露する児童もいた。 一方、他の和楽器については、ここ数年、地域保護者を講師として夏休み教室のお琴教室を開催し、簡単な曲の演奏ができるようになるまで児童が楽器に触れる機会を儲けている。 外国語教育については、全学年で外国語、外国語活動の授業では英語専科指導講師、ALTを活用して確実に実施している。また年間3回の東京科学大学留学生との交流教育を実施している。実施に当たっては話し合い、連携を密にし児童の自主的な関わり方ができるようになってきた。地球規模課題については、4年社会科で身近なゴミ問題について学習し、それを受けて5年SC科では海洋プラスチック問題について、校外の海浜で調査したり、大学職員を講師として招いて学びを深めている。今後は広く環境問題を考えていけるようにする。	A B C D	10 1 0 0	・ 今年も和太鼓発表会は、とても素晴らしかったです。 ・ 和太鼓の演奏も年々上手になってきているとおもいます。音楽の先生のご指導のお陰だと思います。先生が変っても、引き継いで欲しいです。 ・ 日本人は、外国の方に日本文化を紹介することが意外と難しいと言われています。そのような中で、小学校のうちから、英語というツールを身近に感じながら学びさらに和太鼓を通して、日本文化を体で感じ経験できることは、将来大変役に立つ貴重な学びになると思います。 ・ 和太鼓発表会では、年々レベルが上がっていると感じています。 ・ 伝統文化を経験した上で国際性を涵養する教育は高く評価できる。個々の教員の努力に敬意を表します。 ・ 住宅が多い地域で、全校をあげての和太鼓発表会を継続するのは大変だと思いますが、文化継承のため続けていただきたいです。 ・ 櫓を活用しての太鼓発表から、児童達は立派に胸を張って和太鼓演奏が出来るようになりました。心無い苦情にめげず今後もご指導ください。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標3 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケートで「友達と仲良く過ごしている」の肯定的な回答の割合(4段階上位2位までの割合)	4:95%以上 3:90%以上 2:80%以上 1:80未満	4	児童アンケートで「友だちと仲良く過ごしている」の肯定的回答が96．7%と昨年度よりさらに0．5ポイント上がった。 年間を通して様々なたてわり班活動を行ってきた。 たてわり班あそびでは、毎学期年間5回実施した。計画を立て、準備片付け振り返りを重ね、下級生が理解して楽しめる遊びを上級生が計画、準備　振り返り等を行った。また、希望調査をしたり、ルールを変更したりするなど、柔軟にまた臨機に応じて対応する力もついてきた。 たてわり音読会は年2回実施し、下学年への希望調査、選書等を経て活動する中で相手を思いやったり、優しい気遣いが見られたりした。活動場所も臨機に応じて変更し、児童たちが活動しやすいように配慮できた。 たてわり遠足では、全校で公共交通機関を利用して、出発から帰校までたてわり班で行動し、集団行動でのルール、マナー、公共心、自然愛護、思いやり、友情等の心がはぐくまれた。公園では班ごとに遊んだり食事をとったりしたが、遊びやゲームの工夫、より異学年交流が効果的、適切に行われる様に考えていく必要がある。 たてわり班活動や、新学期当初の6年生による1年生のお世話活動等を通して、中休み、昼休みに異学年で仲良く遊ぶ姿が日々見られる。また運動能力テスト、持久走記録会等ではの上級生と下級生のペア活動等、多くの異学年活動を実施していることは、友達と仲良く遊べる基となっていると考えられる。	A B C D	10 1 0 0	・ 兄弟姉妹の少ない家族構成の中、たてわり班活動は推奨致します。 ・ 上級生が下級生の面倒を見る姿を見ていると、仲が良くていいと思います。一方、低学年の児童の高学年の児童に対する態度が、時々、少々荒くなる時が気になっています。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		⑤たてわり班活動を実施し、異学年の交流を通して互いに認め合う態度や思いやりの心を醸成している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標4 学校力・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者による公開授業アンケートにおいて「授業の進め方は、こどもたちにとって、分かりやすかった。」の肯定的な評価の割合((4段階上位2位までの割合)	4:95%以上 3:90%以上 2:80%以上 1:80%未満	4	保護者による学校評価アンケートでは、おおたサイエンススクールの取組みについて昨年度より上昇し、97．3%の肯定的な評価を得た。また「とても思う」の割合は72．5%と過去5年間の最高値であった。サイエンススクールの取組みについて、児童の活動を通して、また、学校ホームページで積極的に発信できたからだと捉えている。 また、校内研究では、大田区教育委員会奨励校発表を踏まえ、「対話」に焦点を当てた研究に取り組み、自分や人々の思いや願いの実現のために、主体的・科学的に探究し自然や他者との対話を通して、科学の有用性に気づき、実生活に生かそうとすることを大切にして研究を進めてきた。 今後も東京科学大学をはじめ、多くのゲストティーチャーとの繋がりを大切にしていくとともに、綿密な打合せもと東京科学大学研究室訪問の実施、そして各学年のSC科見学の実施、家庭学習を中心とするマイサイエンス日記、月に1回実施している全校朝会でのサイエンス朝会、理科指導専門員による若手教員研修、学校だより、学校ホームページ、月1回発行のサイエンス通信等を継続しする中で、学年ごとの新たな学習内容への取り組みも行う。	A B C D	9 2 0 0	・ おおたサイエンススクールとしての清水窪小が高く評価され、学校力、教師力が確実に向上していると見受けられる。 ・ 東京科学大学としても、引き続き地域のSTEM教育支援として、連携できればと考えています。 ・ 応援致します。 ・ サイエンスフェスティバルの発表では、児童の発表を見ることができて、とても良かったと思います。クラスによって準備する内容(模型・掲示等)に差があったり、時間があまってしまった場合の対応など、先生方の方でもある程度のやり方の共有が必要ではないかと感じました。(特に、SC科に慣れていない先生に対してのフォロー)
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		④校内研究等を通して、サイエンスコミュニケーション科や各教科等の授業力向上を図るための取組を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
個別目標5 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートで「教職員は誠実にこどもや保護者に接している。」の肯定的な評価の割合(4段階上位2位までの割合)	4:95%以上 3:90%以上 2:80%以上 1:80%未満	4	保護者アンケート「教職員は誠実にこどもや保護者に接している」の肯定的な評価96．4%と目標を1．4ポイント上回った。 毎学期服務研修会を実施し、公務員としての自覚を喚起し、毎学期、自己申告書に基づく授業観察、面接を行い、その資質、能力の伸長を図るように指導してきた。 特別支援教育校内委員会を毎月実施し、発達障害をもつ児童に対しての、学校、家庭、特別支援学級、心理士との会合をもち、児童への適切な配慮、支援を考え、家庭、関係諸機関と連携して合理的な配慮、ユニバーサルデザイン等総合的に一人一人の児童への適切な指導が行えるように教職員間で共通理解を図り、組織的に指導、見守りを行っている。また、夏季休業中には、合意形成による合理的配慮にについて、特別支援教育研修会を設けた。 また、いじめ調査を定期的に行い、その結果を基に校内委員会を開催し、全教職員でいじめ根絶を図っている。また不登校児童　保健室登校児童については特別支援コーディネーターを中心に、養護教諭、特別支援員、登校支援員、管理職等で組織的に対応し、保護者との連携も密に行っている。	A B C D	11 0 0 0	・ 小学校において、いじめの対策は、こども達が安心して学校生活を送るためにとても大切なことだと思います。全教職員でいじめの根絶を図って頂いている清水窪小学校は素晴らしいと思います。 ・ 何事も連携を保ち、共有することが大切と思います。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
個別目標6 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートで「教職員は、教育環境の工夫、美化に努めている。」の肯定的な評価の割合(4段階上位2位までの割合)	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70&未満	4	保護者アンケート「教職員は、教育環境の工夫、美化に勤めている」の肯定的な評価は93．8%と3．8ポイント上回った。 今年度は図画工作科の作品を校内各所に常時展示し、学校公開、夏休み作品展、書き初め展等、保護者、地域の方々に鑑賞の機会を設けられた。またサイエンススクールとして校内研究部による環境整備部とともに管理職、教員支援員、エデュケーションアシスタント等で組織的に行い、掲示物の作品、情報も更新し、児童たちの興味関心を持続的にもたせる工夫をした。 また校内外の美化については日々用務主事に委ねているところが多いが、週2回の清掃の時間を通して奉仕的活動を行い、ゴミ、資源ごみ等の分別処理については用務主事と連携し、児童たちにも認識させるようにしている。また、日々、児童たちが入校する前に管理職による校内巡回をはじめ、午前午後に複数回の巡回、授業観察を行いながら、教室の教育環境を確認し、場合によっては指導をしたり、簡単な清掃、掲示物の修正、修理等を行ってきた。 一方、毎月の安全点検に加えて、年に1回、区の施設・設備の点検を通して設備点検、及び改善を図っている。	A B C D	8 3 0 0	・ 清掃時間の減少、短縮化に伴ってのことなのか、教室や特別教室(家庭科室等)の床にごみが散見されます。自分のごみを拾う等、意識をもってもらえたらと思います。 ・ 校内はいつも清潔に保たれて、校庭の整備も整っています。校内の壁には色々なテーマの掲示物が整然と貼られており目を引きます。 ・ 様々な工夫がなされ、素晴らしい教育環境となっていると見受けられる。 ・ 図工の掲示、保健室前の掲示、給食の掲示など今年度は色々と工夫されていた様に思います。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③安全点検を確実に行うとともに、食物アレルギーに関する事故防止に努めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標7 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートで「学校は、地域、外部の力(学習の専門家)をこどもたちの教育活動に活かしている。」の肯定的な評価の割合(4段階上位2位までの割合)	4:95%以上 3:90%以上 2:80%以上 1:80%未満	4	保護者アンケート「学校は、地域、外部の力(学習の専門家)をこどもたちの教育活動に生かしている」の肯定的な評価は97．48%と2．4ポイント上回った。 東京科学大学との連携は、2年生以上の研究室訪問の他に、来校を受け、授業を観ていただいた後に講話や指導をいただいた。6年生のSC科「卒業研究」では、個々に研究テーマを設定して取組むため、「研究の進め方」について東京科学大学名誉教授の来校を受け、講義を受けた。 また神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員の来校も受け、児童たちの学びに価値づけをしていただいた。さらにサイエンスコミュニケーション科見学では、東京都上野上野動物園動物解説員や葛西海浜公園レンジャーの方々に現地の状況を具体物を用いた解説を受け、実地調査を行うことができた。特に東京都上野上野動物園動物解説員とは、事前、事後に打合せの上、オンライン授業を数回行った。 講演会 授業 地域活動 地域行事参加 [illegible]	A B C D	9 2 0 0	・ 清水窪応援隊の取組について、もう少し詳しく知りたいです。 ・ 小学校において、地域の方や「わくわくスクール」など外部の方のお話をうかがう機会があることは、清水窪小ならではの、素晴らしい取組だと感じました。 特に6年生の卒業研究発表を見せていただき、その研究の進め方はまるで中学生のよりも本格的で、説明もとてもわかり易く、感じました。生き生きと発表している姿から、日頃の積み重ねの大切さを感じました。 ・ 東科大との連携が強化されている。わくわくスクールが充実している。 ・ 科学大との連携が地域のコミュニティの中核となっている。また、わくわくスクールへの地域の皆さんの参加・協力もすばらしい。これらを通して地域社会が構成されていることは高く評価できる。 ・ 東京科学大のサークル活動等によるわくわくスクールとの連携の充実も図って行きたいと思います。 ・ こども達を地域で見守り育成します。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		④研究室訪問、国際交流、わくわくスクール等、東京科学大学や地域と連携した教育活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4							

けん

○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点